経友会ニュース

第26号

ご質問・お問合せ・メールのご登録は
大阪市立大学 経友会
（大阪市立大学 経済学部同窓会）
keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp
http://keiyukai.info

2014（平成26）年３月25日発行

平成25年度　第９期　経友会講座

平成17年の秋、第１回経友会講座を開講してから今年度で９年目を数えます。この間に登壇いただいた講師は述べ116人、実人数で108人。多くの先輩諸氏が学生たちに産業経済論特講として生きた経済を講義し、併せて進路の参考となるアドバイスを与えてきました。

今期も13人の先輩諸氏が田中記念館のホールで壇上に立たれ、自身の経歴、仕事の内容、業界の現状等について熱心な講義をされました。その概略を講義で使用されたレジメ・資料等で紹介します。

（ページ数の制約から要約または一部省略させていただきました。）

田中記念館

第１回　平成25年10月３日　「自治体と活性」

武田　勝玄 氏
（Ｓ49年　理学部卒）

大阪府河南町　町長
元ソニーマーケティング

１．ＪＪ（じぇじぇ！ ―岩手県久慈市の方言）　２．堺市長選挙と大阪都構想～読売アンケート　３．人口減問題～2040年（日本 8,600万人、社人研河南町版 1,240人）　４．自己紹介～一般企業から政界へ、郷土のために役立ちたい。武田語録（身の丈・着眼大局　着手小局 ・ほか）　５．ソニーの話～人のやらないことをやる開拓者、ソニースピリッツ　６．経友会ご縁～ハルカス　岡本副社長、商友会との出会い　７．町の紹介～名所（弘川寺　西行生誕900年）、産業（基幹産業＝農業 生産、加工、販売⇒道の駅）、ブランド（水越米）　８．将来設計～七本の矢 カナノミクス＝農業振興を軸とする成長戦略、安全・教育・子育て・高齢化社会河南町モデル、美しい町の創造など　９．学生観～腰パン、福祉負担の増大、選挙、投票行動、希望

第２回　平成25年10月10日　「テレビ産業の興亡～技術と社会のかかわり～」

山口　南海夫 氏
（Ｓ44年　工学部卒）

元パナソニックテレビ本部、
元日本ビクター専務

１．カラーテレビの仕組みと歴史（・テレビ放送の仕組み・テレビ電波の経路）　２．テレビは世界を変えた（テレビ電波は国境を越える⇒ベルリンの壁の崩壊）（アメリカより10年遅れで始まった　・放送は高画質に　・画面は大型化　・価格低下　・国内出荷台数 年平均 800万台）　３．産業としてのテレビ～キーデバイスに着目（回路デバイスの進化、ディスプレーデバイスの進化）　４．テレビ産業、覇権の変遷（アメリカはブラウン管のリーダー　・日本はIC化によりトップに　・液晶工場が薄型テレビ　・パネルがコストを決定、価格が年率30％低下）　５．まとめ－〔抜かれた本当の理由〕：年ごとにキーデバイスの進化、価格を30％下げた新製品　〔どうすれば先取りできるか〕：キーデバイスの性質の分析、次に起こる変化の予測、変化に対応する組織改革）

第３回　平成25年10月17日　「地方銀行は企業とどのように向き合っているか」

青野　栄一 氏
（Ｈ４　経済学部卒）

池田泉州銀行堺支店次長

１．本日のテーマについて　①銀行の基本的機能　②お客さま（とりわけ地元企業）とどのように関わっているか　２．お金の機能　①価値保存機能　②交換機能（決済機能）　③価値の尺度機能　３．銀行の歴史（銀行の名前の由来　・Bankの語源　・日本で最初の銀行　国立第一銀行）　４．銀行の基本的機能　①資金仲介機能　②資金決済機能　③信用創造機能　５．銀行の機能（池田泉州銀行）営業店：支店、外貨両替店、駐在員事務所　本部：戦略３本部（先進テクノ推進部　・アジアチャイナ推進部　・プライベートバンキング部）、営業推進部門、審査・債権処理部門、マーケット部門、管理本部、監査・法務部門　営業店：預金 ・為替 ・資産運用相談 ・事業性融資 ・ローン ・外国為替 ・その他　６．企業への機能提供（ビジネスマッチング・技術開発支援 ・海外ビジネス支援 ・事業承継相談）

第４回　平成25年10月24日　「LRTを都市交通の主役にしよう～ひとと環境にやさしい新型路面電車の導入が大阪を救う～」

土居　靖範 氏
（Ｓ42年　商学部卒）

立命館大学経営学部教授
（交通政策論、
国際ロジステック論）

〈○人と環境に優しい公共交通機関の導入は世界の都市交通の流れ ○クルマ社会の進展を放任する都市はやがて衰退 ○人と環境に優しい公共交通機関がLRT〉　1．LRTの世界での開業動向（1980年代　ヨーロッパや北アメリカで進む）　2．ヨーロッパのLRTの特性（大量輸送・高速性、環境への優しさ、低コスト、快適性）　3．日本の路面電車およびLRV（LRTの車両）の状況　路面電車：18都市で938両、運行規模 平均13.4km　4．大阪におけるLRT導入の必要性（①大阪の交通状況と課題　②超高齢社会の到来　③どのような大阪に住みたいか）⇒大阪市の交通改造の具体的提案　①交通空白地域の解消　②LRTの都心部導入　③中心市街地はトランジットモール化　④運輸連合で共通運賃制度の導入　⑤クルマと自転車の所有から共同利用　5．LRT導入実現のカギ：交通権を保障する基本法と大阪市交通基本条例の制定

第５回　平成25年11月７日　「トラックターミナル事業に携わって～役所生活を振り返りながら～」

横山　隆文 氏
（Ｓ48年 経済学部卒）

㈱大阪港トランスポートシステム社長、
元大阪市役所

1．私の経歴　2．会社業績の推移（略）　3．事業内容（物流施設管理運営、コスモスクエア駅周辺用地開発、第３種鉄道事業の経営）　4～5．トラックターミナル概要　①施設の概要　②バースの増設状況　6．区域トラックセンター（駐車場、有蓋検車場等トラックのケア施設）　7．化学品センター（化学品その他危険物の貯蔵庫・荷捌き施設）　8．シャーシプール（海運貨物のコンテナ化に対応した駐車施設）　9．物流センター（公共コンテナ埠頭の背後に設けられた港湾運送事業者のための流通保管庫）　10. 鉄道事業（路線：大阪港駅～トレードセンター前駅、線路：3km）　11. 私とO.T.S.とのかかわり（略）　12. 求められる公務員像〔私見〕①. 幅広い知識　②公務員しか就職しないのではなく、公務員でも就職する。③とぎすまされた感性を持つ。④社交性をもつ・・・人と接する仕事ばかり。　⑤公僕・・・清貧に生きる。

第６回　平成25年11月14日　「言語文化を通してみるアメリカ共生社会の諸相」

福西　淳 氏
（Ｓ38年　経済学部卒）

元梅花女子大学教授
（比較文化学科）
元毎日新聞外信部

〈はじめに〉テーマ解題、略歴からテーマにつながる経緯、共生社会研究へ
LGBT（性的少数者）の社会的受容が本格化する米国共生社会
1．同性結婚、社会的認知へ急前進（米最高裁は2013年６月26日、同姓婚権を認める歴史的な判決。基本的結婚権をゲイカップルにも拡大。1－2．ボーイスカウト青少年部でゲイ会員の入会解禁。1－3．退役軍人管理局　ゲイ、レズにも配偶者特典支給へ。1－4．職場でのLGBT差別禁止法案、上院で可決。2．積極的差別是正政策の“逆差別”現象（人種差別克服とアフリカ系人の社会的地位上昇のため、教育機会や職場の積極的付与が時を経て逆差別の状況。）3．「根深い人種差別」意識の現実。Martin Trayon少年射殺事件と正当防衛法との関連。（司法長官、正当防衛法を非難）4．Edward Snowdenと米情報監視体制―懸念される「特定秘密保護法案」（日本）

第７回　平成25年11月21日　「森林・林業・山村再生をめざして」

谷　彌兵衛 氏
（H10年　経済研究科修了）

林業経済史研究者
経済学博士

〈基本的な視点〉地球環境は元気な森林によって守られ、森林は元気な林業によって作られ、林業は元気な山村によって維持される。森林は文明の源流であり、山村なくして都市の存立はない。
1．山村・森林・林業の現状（1）崩壊する山村（過疎化→共同体の機能消失）（2）荒廃する森林（植林・施業放棄→成長不良、伐り捨て間伐・むき出しの地表→土砂災害の危険、機能喪失）（3）衰退する林業（木材価格の低落→植林等が不採算→林業家の意欲喪失、高齢化と人口減）　2．その原因（1）高度経済成長（若年労働者の流出）（2）林業政策のミスリード（拡大造林、外材輸入自由化等）　3．山村・森林・林業の再生（1）森林樹種別ゾーニングと計画的育成（2）木材利用のイノベーション（3）自然エネルギーの自給自足（4）森林の国・公・共有化―施業は民営主体（5）山村の再生（6）新しい山村と都市の交流（7）「林業・山村再生国民会議」による国民運動を

第８回　平成25年11月28日　「生活協同組合概論と大学生協について」

堀　隆行 氏
（Ｈ４年　経済学部卒）

大阪市立大学生活協同組合
専務理事

1．生協とは（「組合員」が出資、「組合員」の「生活向上」のための事業を「共同」で行う）　2．ICA（International Co-operative Alliance）　会員組織総数　266　組合員10億人超　3．時代背景（市民革命　・産業革命　・過酷な労働条件と低賃金）　4．協同組合思想（Robert Owen）　5．協同組合の結成（ロッチデール原則①自由加入制②一人一票制③購買高配当④出資金利子制限⑤政教への中立⑥現金取引⑦教育活動促進⑧品質重視）　6．日本での生協　代表的なものとして（農協・漁協・森林組合・事業協同組合・信用組合等）　7．生協の種類（地域生協・職域生協・学校生協・大学生協・医療福祉生協等）　8．大学生協の始まり（1898年同志社大学消費者組合・1951年大阪市立大学生協）　9．大学生協とは（４つの使命―協同・協力・自立・参加）

第９回　平成25年12月５日　「株式会社ニッカトー創業100年の歩み」

清水　奉明 氏
（Ｓ46年　商学部卒）

㈱ニッカトー常務取締役
経理部長
元第一勧銀江坂支店長

１．はじめに（プロフィール）　２．会社の概要（本社　堺市、業種　セラミック、計測機器、加熱装置の製造販売））　３．創業にいたるまで　４．西村工業㈱時代（昭和15年アルミナ磁器の本格的工業化）　５．日本化学陶業㈱時代（戦後復興、発展期の時代）　６．株式会社ニッカトー（平成３年社名変更　・平成16年ジャスダック証券取引所に上場　・平成19年東証２部に上場　・平成20年東証１部に上場　・平成25年６月　創業100周年）　７．東証への株式上場作業について（略）　８．最後に～当社の特色：ニッチ分野でのリーディングカンパニー、金属系酸化物の原料と樹脂系の接着剤の多種多様な配合によるファインセラミックの製造、セラミックベアリングの開発・製造販売の開始

第10回　平成25年12月12日　「鉄鋼業および産業ガスの現状」

松井　俊文 氏
（Ｓ55年　商学部卒）

エア・ウォーター㈱
広報・IR室部長
元新日鉄住金㈱

〔鉄鋼業界の現状について〕　１．新日鐵住金㈱の製鉄事業の紹介　２．粗鋼生産規模世界第２位　３．需要分野別出荷構成　４．事業内容・業績推移・経営環境の見通し、世界のCO_2国別排出量、新日鐵住金の３つのエコ、革新的技術開発の推進、ガスシールドアーク溶接、ガスの需要分野・各種ガス　〔国内ガスメーカーの再編図〕１．メジャー４社と民族系：市場７兆円　２．エア・ウォーター　同業他社の業績　３．10年連続増益企業（売上高トップ　エア・ウォーター5,400億円）　４．セグメント別業績（医療、農業・食品が拡大）〔成長と改革への挑戦〕１．シナジー追求による総合力の発揮　２．１兆円企業実現に向けた成長ドライバーを生み出す　３．産業ガス、医療関連、ケミカル、エネルギー、農業・食品等の事業、その他の売り上げ構成比　４．産業ガス事業これからの成長

第11回　平成25年12月19日　「鉄道会社における観光事業のこれまでと今後の展開」

木村　靖夫 氏
（Ｓ53年　経済学部卒）

京阪電鉄㈱常務執行役員
（流通業統括責任者）

１．京阪電車ならびに京阪グループ（Gr）の概要（鉄道業・不動産業・Gr企業、1906年創業者　渋沢栄一）　２．戦前の旅客誘致活動（湖南汽船設立、菊人形）　３．京阪Grの戦後復興とレジャー事業の展開（「おとぎ電車」、樟葉ゴルフクラブ、外輪船「ミシガン」、大阪水上バス・大阪湾クルージング「サンタマリア号」）　４．観光立国の時代　ビジットジャパンキャンペーンの展開（訪日外国人1,000万人達成、クールジャパン・コンテンツ産業）　５．京阪電車の旅客誘致活動（「京都へいくならおけいはん」　京阪Gr：観光関連企業が多い）　６．関西観光の課題　大阪観光局への期待　①交通アクセスの改善　②観光プログラムの充実　③多言語対応と文化の多様性への理解　④海外への情報発信力の強化　○訪日観光客誘致：中間階層をターゲット、関西周遊ツアーの創出

第12回　平成26年１月９日　「映像制作を通して社会を視る ～街の記憶を伝える方法　朝日ビルビデオを事例として」

若林　あかね 氏
（H18年　創造都市研究科修了）

㈲ジオメディアプロダクション
エグゼクティブダイレクター

１．建築ドキュメンタリーをつくるまで（朝日放送ラジオ、旭化成マーケティングを経て、1994年　会社設立）　２．朝日建築の魅力（①朝日新聞社本社ビル　設計者：藤井厚二、社主　村山龍平邸宅、聴竹居　②朝日会館　設計者：松下甚三郎　朝日新聞社が市民ホール建設　③大阪朝日ビル 設計者：石川純一郎　ターボ空冷機、航空灯台、屋上スケート場　④新朝日ビル　フェスティバルホール、朝日新聞社のビル建築が地域開発を先導　３.「関西の歴史建築　朝日ビル　伝統の継承と進化」（旧神戸生糸検査所、旧大阪市立精華小学校、朝日ビル等　昭和初期の中之島地区、朝日ビル地区）　４．ブラジル移住とコーヒー文化　５.「関西の歴史建築」（旧カフェーパウリスタ箕面店=豊中自治会館）　６．大阪歴史博物館特集展示「近代建築の記憶」について（庁舎・事務所、百貨店等）

第13回　平成26年１月23日　「住宅の設計」（「住まい」づくり）

山中　恵子 氏
（Ｓ47年　生活科学部卒）

山中恵子建築設計室
元大林組、
元遠藤剛生建築設計事務所

１．建築家の役割（「建築家」とは「建築の設計・監理人」　３つの条件～美的感動を目標に設計、建築士の資格、独立した立場での設計と管理　○建築家の役割～よきアドバイザー・社会的利害の調整者・社会的公正を保つための第三者機関　○建築事務所の種類～独立の設計事務所・建設業の中の設計事務所・営業部門としての設計事務所　２.「住まい」とは　分類：利用関係による分類～持ち家、貸家、給与住宅、分譲住宅。　建て方による分類～一戸建て、長屋、共同住宅　３.「住まい」づくりの依頼先～建築家・工務店・ハウスメーカー　４．依頼先による比較～建築家・工務店・ハウスメーカーそれぞれの設計の自由度。　施工業者選び～コストの査定、工事監理、設計期間、工事期間を比較評価　５.「住まい」づくりのプロセス～構想・基本設計・実施設計・工事契約・設計監理・アフターケア　６.「住まい」の構造～木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・混構造

ホームカミングデーで記念講演会

経友会・商友会が共同開催

昨年６月、有恒会総会の機会に経友会 塚本喜左衛門会長、商友会 岡本直之会長が対談した際、岡本会長からホームカミングデーの日に共同で記念講演会を実施したいとの提案があり、塚本会長はこれを受け入れてこの講演会が実現しました。講演会の企画は商友会が行い、経友会はこれに相乗りする形で開催しました。

大阪市代表監査委員の高橋敏朗氏（大阪市立大学名誉教授、元商学部教授）を講師にお招きし、６月５日午前11時から法学部棟の大会議室で「大阪市の財政状況とその課題」と題して講演をいただきました。

大阪市代表監査委員　高橋敏朗氏

≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫≫　≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪≪

商友会　岡本会長　開会の挨拶

講師の高橋先生はこの日の講演で、はじめに市監査委員の基本的な役割についてわかりやすく説明されたあと大阪市の財政関係資料を提示して、財政収支の傾向が福祉関連経費の増大等により逼迫状況にあることを説明され、国全体としても少子化と高齢化による医療費・保険給付費等の増大により、国民皆保険制度が崩壊の危機に瀕していることを示唆されました。

また大阪市の今後に固有の問題として大きな財務リスクがあること、すなわち、大きな負債を抱える土地信託事業や道路公社に対する債務保証、第三セクター（ATCほか市出資の市街地開発等の株式会社）、臨海部ほかの土地区画整理事業など清算時に市が巨額の負債額を負担せねばならない問題等について数字資料を示して説明された。

そのあと今後の取り組むべき課題について、行政経営の効率化として３Ｅ〔経済性－Economy　一定の成果を得るのに最小の費用で実現できる案、効率性－Efficiency　インプットに対するアウトプットの関係で測る、有効性－Effectiveness　政策・施策の目標に合致した効果の実現、実現の達成度〕の追求を挙げられ、３Ｅ目標の実践を次のように示された。①経済性－施設調達での広範な見積りと比較衡量、契約での一般競争入札の導入など　②効率性－高額物品・施設の使用効率（稼働率）、資金の調達・運用・投資効果、事務作業の効率化、徴収率の向上ほか　③有効性－大型プロジェクトの事前の事業評価、事業の具体的目標設定・実施手段の明示、工程表・進捗管理体制・目標の指標化と達成度評価の方法、大規模事業評価と総括等―を示された。

経友会　塚本会長　閉会の挨拶

最後に市行政に民間企業経営の視点を採り入れるためにも、職員の官民交流が大きな鍵になると締めくくられた。

玉井先生　退職される

長年、本学経済学部で教壇に立たれていた玉井金五先生（経済学博士）は、去る２月20日退任の記念講義を行われました。法学部棟の大会議室で行われた講義には、玉井ゼミの学生、卒業生をはじめ、同僚の経済学部の先生方、外部の研究者らが多数聴講に詰めかけました。

講義は、森 誠経済学研究科長・学部長の感謝とお別れの挨拶の後、「社会政策研究・教育40年」と題して、1974（昭和49）年大阪市立大学大学院経済学研究科進学から今日に至る40年の研究・教育活動を回顧する形で、自身の研究活動と、ゼミを通じての教育に対する思いを淡々と語られました。今後は、４月から名古屋の愛知学院大学へ経済学部教授として赴任されます。

～～～

── シリーズ　経済学部の先生紹介 ──

このシリーズでは先生方から自己紹介の形でご自身の研究テーマや講座などについてご寄稿いただいています。この号では、発展途上国の経済発展を対象とした実証分析を研究テーマとされ、授業では経済開発論、中国経済論を教えておられる森脇 祥太准教授の登場をお願いしました。

森脇　祥太 准教授

研 究

専門は経済発展論です。現在は、中国農業を対象として、農村部の貧困の原因となる過剰労働力の計測や農村部の環境汚染を数量的に評価するための研究を同時に進めています。

プロフィール

私の経済発展論研究の原点は、早稲田大学商学部の学生時代、大塚勝夫先生のゼミで行った山形県高畠町での農村体験です。大塚先生は日本のみならず、アジア諸国の農村へもゼミ学生を引率しており、国際的視野で行動し、考えることも同時に学ぶことが出来ました。

2013年９月　森脇ゼミ　インドネシア合宿　ジャカルタでごみ処理を見学

大塚先生は一橋大学で「長期経済統計」を作成したグループの中心的存在である大川一司先生との共同研究も行っていました。日本の経済発展を統計データを使用して検証し、その経験をアジア諸国と比較しながら教訓とすることを目指す学風に強く引き付けられました。

大学院進学後は、特にミクロ経済学と計量経済学を一生懸命、勉強しました。その結果、経済発展論に関する学術論文を英語で読んで、自分でデータを収集、加工して実証研究を行うことが出来るようになりました。

大学院を修了して縁あって、2002年から2011年まで拓殖大学国際学部に勤めました。教育と学内の様々な業務にとても忙しい毎日でしたが、大学の教員として必要な多くのことを学べたと思います。研究面でも2009年に京都大学で論文博士を取得し、一つの区切りをつけることが出来ました。

大阪市立大学へは2011年に赴任しました。海外研修をゼミの定例行事としており、2012年には中国の雲南省､2013年にはインドネシアのジャカルタを訪れました。また昨年度から沖縄でもゼミ合宿を行っています。沖縄とアジア諸国の双方を体験することで学生が何かを学んでくれたらいいなと考えています。

会費納入をいただきありがとうございます。

平成25年度から、直近の３年間会費納入のなかった方には経友会ニュースの配布と総会の案内を休止しています。誠に残念ですが、会費納入率が年々低下してきていて、経費切りつめのためやむなくこの措置をとっています。

当会が中核的事業としてきた経友会講座は本年の秋には10年目を迎えることとなりました。こうした経友会の諸活動は、本来的には会費を財源として支弁すべきところですが、近年は会費納入状況が芳しくないため、学部創立50周年記念事業の際に積み立てられた積金を取り崩して活動経費を賄っています。

会費未納の方には、ぜひ本会の活動にご理解をいただき本学経済学部を支援する諸活動を継続して行くために会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

平成25年度会費納入のお願い

経友会の会計年度は６月１日から翌年５月31日までです。当年度会費未納の方には振込用紙を同封いたしましたので、納入方よろしくお願いします。

なお、昭和61年以前に学部卒業の会員、および大学院修了または中退の会員の方には年度会費、終身会費のどちらかをお選びいただくことができますので、よろしくお願いします。

平成25年度会費　納入者一覧

平成26年３月５日現在　　敬称略

卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名
S. 28	若林　健介	S. 31	山口　善吉	S. 34	岡田　皓三	S. 41	山本　晃	H. 1	橘髙　稔治
S. 28	中家　隆造	S. 31	宇佐美秀昭	S. 35	清住　紳三	S. 41	吉村　正勝	H. 1	名田　久幸
S. 28	山村　昭夫	S. 31	堀内　巌	S. 35	吉川　正男	S. 42	石川　雅志	H. 5	武政　良二
S. 29	土倉　毅	S. 31	森島　陽一	S. 36	小森　征夫	S. 42	小津　邦宏	H. 5	飯田　隆仁
S. 29	河﨑　清	S. 31	杉本　一郎	S. 37	宮澤　博臣	S. 43	広岡　尚	H. 7	米田　浩
S. 29	林　昭	S. 31	梅本　貴市	S. 37	坂　弘志	S. 44	小島　正	H. 9	大美佐知子
S. 30	阪口　英一	S. 32	石原　靖造	S. 37	鈴木　康二	S. 47	中村　忠夫	H. 9	清水理絵子
S. 30	山田　博利	S. 32	今川　明	S. 37	日笠　健生	S. 47	竹下　義郎	H. 10	李　態妍
S. 30	安田　隆次	S. 32	髙橋　孝三	S. 37	佐藤　博之	S. 47	井上　昭三	H. 12	岩本　登
S. 30	今藤　隆右	S. 32	谷川　俊雄	S. 37	木村　邦彦	S. 47	松尾　正典	H. 13	井代　順子
S. 30	皆川　宏子	S. 33	稲別　正晴	S. 37	村岡　龍馬	S. 47	虫明　優	H. 13	松尾元治郎
S. 30	滝上　正三	S. 33	辻本　昭章	S. 37	坂本　健郎	S. 48	荻野　芳夫	H. 13	多田　敏明
S. 30	宇野　實	S. 33	植村　保司	S. 37	阪口　宏	S. 48	清水　眞一	H. 21	関谷　尚志
S. 30	平田　裕造	S. 33	太田　次男	S. 38	加谷　壽一	S. 49	朝井　保	H. 21	富崎　栄子
S. 30	益田　三郎	S. 34	須藤　智司	S. 38	奥村　修二	S. 49	越智　清光	H. 23	木田　貴之
S. 30	大野　光男	S. 34	北田　宏文	S. 38	戸井　靖夫	S. 50	大西　芳昭	H. 23	山分　信幸
S. 30	塩見　達彦	S. 34	壺井　修一	S. 39	川野　勝宏	S. 53	渡辺　恵一	H. 23	古家　保男
S. 31	西村　忍	S. 34	相川　満	S. 39	中島　将隆	S. 54	市川　正純	H. 24	大原　俊和
S. 31	宇野　正夫	S. 34	上田　武雄	S. 40	狩野　武司	S. 55	岡本　年行	H. 24	小野　宗則
S. 31	長谷川匡四	S. 34	花田　恭	S. 40	木村　武志	S. 56	三木田裕彦	H. 24	粟田　皓也
S. 31	加納　裕司	S. 34	橋本　芳久	S. 40	中尾　貴司	S. 57	岡森　啓	**平成26年度前納者**	
S. 31	太田　勇	S. 34	藤井　充博	S. 41	齋藤晃一郎	S. 62	佐々木　淳	木田　貴之	
S. 31	二宮　廸夫	S. 34	竹内　陽一	S. 41	前田　勝弘	S. 63	大西　功蔵		

経済学部教員

浦西　秀司、海老塚　明、岡澤　亮介、小川　亮、大島　真理夫、北原　稔、坂上　茂樹、滋野　由紀子、柴田　淳、C. ウェザーズ、玉井　金五、辻　賢二、長尾　謙吉、中川　満、中嶋　哲也、中島　義裕、中村　健吾、中村　英樹、朴　一、橋本　文彦、福原　宏幸、松本　淳、森　誠、森脇　祥太、脇村　孝平

終 身 会 員 一 覧

終身会員の申し込み資格：昭和61年以前の学部卒業者と大学院修了・中退者　　平成26年３月５日現在（敬称略）

卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名	卒業年	氏　名
S. 28	建部　好治	S. 34	宮田　哲弘	S. 37	村井　節男	S. 42	中川　睦彦	S. 48	三歩一雄次
S. 28	松本　昌美	S. 34	髙田　直彦	S. 37	岸本雄次郎	S. 42	出原　康雄	S. 48	藤井　常雄
S. 28	久我　一郎	S. 34	西尾　雅一	S. 37	藤田　吉之	S. 42	藤田　博之	S. 48	岡村　美孝
S. 28	上羽　　宏	S. 34	斎藤　三朗	S. 37	岡本　好右	S. 42	渡邊　尚年	S. 48	篠原　正人
S. 28	福持　一昭	S. 34	髙瀬　昌弥	S. 37	寺田　正博	S. 42	津本　忠美	S. 49	山本　泰徳
S. 28	中山　昌彦	S. 34	増尾　　穣	S. 37	工藤　治夫	S. 42	松田　芳昭	S. 49	喜多　直記
S. 28	片山　政造	S. 34	森川　継雄	S. 37	八代田次郎	S. 42	伯井　真人	S. 49	滝川　　実
S. 29	佐久間舜二	S. 34	濱口亀三郎	S. 37	陸野　　桂	S. 42	吉田　通弘	S. 49	和田　　裕
S. 29	石井　寛治	S. 34	西田　　博	S. 37	富内　宏昭	S. 42	角野　　浩	S. 49	大西　悦夫
S. 29	大西　義夫	S. 34	依田　丞市	S. 37	南部　昌弘	S. 43	高田　誠一	S. 49	和田　龍三
S. 29	河野　延雄	S. 34	南條　　耀	S. 37	柳田　　健	S. 43	天野　元良	S. 50	有田　正文
S. 29	芦田　信明	S. 34	林　　健二	S. 37	菅野　吉昭	S. 43	大杉　克彦	S. 50	木下　　順
S. 29	市口精一郎	S. 34	四方　昭男	S. 38	上村　恭一	S. 43	辻本　敏彦	S. 50	牧野　幸雄
S. 29	保田　節雄	S. 34	中嶋　勇作	S. 38	山幡　一雄	S. 43	能瀬　　巌	S. 50	山内　晃一
S. 29	土井　　魏	S. 34	峯　　博	S. 38	熊谷隆一郎	S. 43	面田　真一	S. 50	松浦　康裕
S. 29	家木　裕隆	S. 34	高橋　　宏	S. 38	吹田　　正	S. 43	河崎亜洲夫	S. 50	前川　昌宏
S. 29	梶谷三千子	S. 34	福井　昭彦	S. 38	中野　眞雅	S. 43	奥田　重隆	S. 50	倉田　信彦
S. 29	金岡　　徹	S. 34	浦田　　博	S. 38	岡田　紀一	S. 43	石髙　康治	S. 50	藤井　一彦
S. 29	倉田　喜弘	S. 34	中村　恭三	S. 38	原田　哲郎	S. 43	木野比佐司	S. 50	橋本　　純
S. 29	池田　満邦	S. 35	板垣　　望	S. 38	谷辺　光正	S. 43	安藤　　清	S. 50	泉原　正博
S. 29	森本　泰三	S. 35	吉川　八郎	S. 38	福西　　淳	S. 43	梶原　健司	S. 50	溝谷　仁司
S. 30	木村　　進	S. 35	福井　成康	S. 38	山口　幸夫	S. 43	小林　詔三	S. 51	宮本　岩男
S. 30	横山　修一	S. 35	林　　昌夫	S. 38	浜田　禎彦	S. 43	谷垣　　弘	S. 51	深山　一清
S. 30	藤尾　　隆	S. 35	竹葉　　健	S. 38	北村　　勤	S. 43	辻　　幹彦	S. 51	山本　晃子
S. 30	高木　健次	S. 35	中西　徹雄	S. 38	長畑　　毅	S. 43	福家　　学	S. 52	神藤　敏文
S. 30	龍口　篤夫	S. 35	八田　浩志	S. 39	藤田　　章	S. 44	惣宇利紀男	S. 52	當麻　克哉
S. 30	八木　史朗	S. 35	岡井　英己	S. 39	南森　康彦	S. 44	大西　史朗	S. 52	上田　俊次
S. 30	福田　哲治	S. 35	芦谷　正雄	S. 39	豊島　英俊	S. 44	寺田　栄造	S. 52	桜井　　徹
S. 30	岡田喜三郎	S. 35	福山　亮治	S. 39	藤原　史和	S. 44	溝川　茂久	S. 52	藤沢　　肇
S. 30	木村　陽吉	S. 35	森田　文治	S. 39	岩槻　芳昭	S. 44	定本　安正	S. 52	福田　利夫
S. 31	扇　　貞行	S. 35	福岡　孝一	S. 39	戸田　　浩	S. 44	参鍋　洋三	S. 53	伏田　昌義
S. 31	塚本　弘行	S. 35	古家　　章	S. 39	加藤　紘一	S. 44	杉本　　久	S. 54	炭山　明弘
S. 31	荒岡　由郎	S. 35	南　　直昌	S. 39	森　　武義	S. 44	小寺　輝久	S. 54	羽鳥　敬彦
S. 31	石川　健夫	S. 36	武田　信照	S. 40	島　征一郎	S. 44	加藤　浩史	S. 54	二口　隆洋
S. 31	山崎英太郎	S. 36	堤　　憲幹	S. 40	大井　英司	S. 44	牧野　忠廣	S. 54	浮田　泰昌
S. 31	吉中　尚志	S. 36	野口征二郎	S. 40	山田　義信	S. 44	髙田　紘二	S. 54	植田　健三
S. 31	古賀　　仁	S. 36	井上　家昌	S. 40	宮崎　憲司	S. 44	森定　　学	S. 55	稲田　　隆
S. 32	藤井　　勲	S. 36	村山　慶三	S. 40	久保　　昭	S. 44	古川　弘成	S. 55	中村　　朗
S. 32	木村　泰藏	S. 36	寺田　輝男	S. 40	藤賀　隆文	S. 44	二森　隆之	S. 55	宮本　　守
S. 32	河　　明	S. 36	川原　勝郎	S. 40	福永　　洋	S. 44	堀　　裕雄	S. 55	中山　昭彦
S. 32	丸目　安忠	S. 36	西田芳次郎	S. 40	阪井　輝昭	S. 44	土井　純三	S. 55	北田　道男
S. 32	西　　幹雄	S. 36	小野　重雄	S. 40	蔵岡　一彦	S. 45	梅原　健一	S. 56	岩田眞一郎
S. 32	久保　　勇	S. 36	澤田　　稔	S. 40	小西　一彦	S. 45	新阜　利治	S. 57	大野　卓哉
S. 32	花岡　　實	S. 36	弘田　桂三	S. 40	井奥　博之	S. 45	西田　　衛	S. 57	伊藤　哲元
S. 32	川勝　弘一	S. 36	丹羽登志雄	S. 40	甘田　外成	S. 45	井藤　光明	S. 57	藤薮　裕士
S. 32	星出　政夫	S. 36	南方　　弘	S. 40	広瀬　完治	S. 45	塚田　博人	S. 57	内村　朋弘
S. 33	木村　甲辰	S. 36	中村　和博	S. 40	大和　　猛	S. 46	塚本喜左衛門	S. 57	広瀬　憲三
S. 33	久保多信夫	S. 36	中井　敏男	S. 40	柴本　博司	S. 46	南　　富雄	S. 59	森下　和彦
S. 33	嶋田　　繁	S. 36	黒田　牧夫	S. 40	文谷　和史	S. 46	西田　二郎	H. 6	中野　亘子
S. 33	豊泉　正次	S. 36	田所　　豊	S. 40	山下　秀夫	S. 46	田仲勇一郎	H. 8	田中　健二
S. 33	三上　　陞	S. 36	田中陽一郎	S. 41	食満　厚造	S. 46	津戸　正広	H. 9	竹内淳一郎
S. 33	上村　正昭	S. 37	野崎　充亮	S. 41	山田紘一郎	S. 46	松本　有一	H. 9	高田　雄司
S. 33	大谷　整一	S. 37	大杉　　恒	S. 41	大平　恒己	S. 46	加藤　克俊	H. 10	小汐　明子
S. 33	柏木　敏治	S. 37	山根　泰輔	S. 41	福島　忠信	S. 47	嶋田　　豊	H. 10	島村　幸光
S. 33	小和田勝彦	S. 37	金井　邦夫	S. 41	室　　元明	S. 47	前田　克己	H. 12	山本　恒昭
S. 33	梶井　靖之	S. 37	外村　修一	S. 42	東　　昭司	S. 47	冨田　博重	H. 14	睦谷　晃弘
S. 33	井上　　昇	S. 37	坂脇　徳豊	S. 42	福島　由堯	S. 48	大谷　　和	H. 16	渡辺　光男

退任教員

大川　勉、藤田　整一、星川　純一